常陸大宮市

市民を豊かに　水道から創る基盤

常陸大宮市長　鈴木　定幸 氏

対談

横浜ウォーター　鈴木　慎哉 氏

茨城県北部に位置する常陸大宮市は県内2番目の面積を有する中、人口減少が急速に進行する。令和元年東日本台風では甚大な水道施設の被害を受けており、水道システムの強靭化と持続可能な経営の確立に向けた基盤強化が急がれる。同市上下水道部では今年3月に「常陸大宮市水道事業経営計画」を策定。さらには、その実践と好循環を図るべく、今年7月に横浜ウォーターと「上下水道事業経営基盤強化に向けた支援協定」を締結し、体制強化、公公・公民双方の連携から経営基盤の強化を図る大きな一歩を踏み出した。本紙では、協定を結んだ常陸大宮市の鈴木定幸市長と横浜ウォーターの鈴木慎哉社長に対談いただくとともに、常陸大宮市水道事業経営計画の内容を解説する。

■協定締結に当たり

鈴木定幸市長（以下、鈴木定）　7月13日に横浜ウォーターさんと「上下水道事業経営基盤強化に向けた支援協定」を締結させていただきました。

2019年からの業務委託を通じて信頼関係を培ってきましたが、「水道のプロ」との協定を締結できたことは、大変心強いものと感じています。

鈴木慎哉　常陸大宮市さんとの出会いは2015年にさかのぼります。日本水道協会茨城県支部のご協力のもと県下の水道事業体をお招きして開催したワークショップの際に、上下水道部の皆さまにご出席いただいたことが最初のきっかけでした。その際、非常に熱心に交流していただいていた姿が大変印象的でした。

その後、2019年度から水道事業経営計画策定業務を通じた技術支援を約2年間にわたり行ってまいりました。

協定の締結を新たなスタートとして、これからも常に寄り添わせていただきながら、常陸大宮市さんがこれまで培ってきたものを大切に、持続可能な公営企業の運営体制を構築していくことに貢献していきたいと思っています。

鈴木定　これまでの横浜ウォーターさんとの業務の中でも水道のノウハウへの視点の広がりや、仕事の意識の変化があったという成果を上下水道部の職員から聞いています。

また、上下水道部は若手の職員が多い中で、経営計画の策定に当たって開いていただいたワークショップ等を通じて、職員の育成や技術継承という面でも効果が実感できているとのことです。

鈴木慎　当社では、横浜市が培ってきた上下水道事業運営ノウハウを生かし、各地の上下水道事業支援を展開しています。昨年には創立10周年の節目を迎え、当社の中期計画を策定するに当たり、これまでの各地での上下水道事業支援を振り返りました。その時に改めて強く感じたのは、地域の水道を守るのは地域の方であるということです。

これまでの常陸大宮市さんとの業務を通じて印象的だったエピソードの一つが、令和元年東日本台風の被災対応です。当社も被災直後から応援職員を派遣させていただき、上下水道部の皆さんが直営体制を基本として民間企業と連携しながら災害対応を自ら体現されている姿、地域の水道、下水道を守るという強い思いに触れました。

常陸大宮市さんが大事にされている公営力は、地域の貴重な財産です。

■有収率の向上へ

鈴木定　2020年4月に市長に着任してから、市民所得の向上を重点課題に取り組んでいます。

所得の状況を測れる指標としては、GDP（国内総生産）が考えられます。GDPは生産と分配と支出が必ずイコールとなる三面等価の原則が成り立ち、これは市町村にも当てはまるものです。

「市内総生産」を一所懸命に拡大していけば、市民所得が向上するという方向性でさまざまな施策に取り組んでいます。

その中で相対的に市民を豊かにするためには、やはり水道というライフラインは、安全・安心そして安価でなければならないというのが私の持論です。

新型コロナウイルスの感染拡大の中で、手洗いうがいは不可欠な習慣となり、水道の重要性はより一層高まっています。その中で、市民全員が等しく享受できる経済対策として、料金の支払い困難者の猶予措置とともに、一般会計の負担による水道基本料金の減免を今年3～4月の使用分を対象に行いました。市民からも好評を得ているところですが、やはり水道というのは必要不可欠なインフラであり、おそらく水道の恩恵を受けていない方というのはいらっしゃらないですし、市民の生活や営みとの結び付きの強さを改めて認識しています。

本市は2町3村が合併し、2004年に誕生しました。茨城県内で2番目に広い行政面積を有し、人口は3万8600人を上回る程度ですが、人口減が進んでいっています。

そして水道・下水道事業は、管路延長が非常に長いインフラとなっています。水道事業を例にすると、類似自治体の平均管路延長は380㎞が程度ですが、本市は733㎞もの管路延長を有しています。

今後のメンテナンスを考えると、本当に大変な課題だと認識しています。その中で2019年度の水道有収率は62・08%です。類似団体の平均が約85%ですから、低い水準と言わざるを得ません。有収率の向上なしに経営基盤の確立はできないと思っています。

まずは有収率の向上というのが当面の重点課題と捉えています。

また、下水道についても公共下水道と農業集落排水事業については人口減少の影響を強く受けており、今後の人口減少とそれに伴う水道料金・下水道使用料収入の減少、上下水道事業運営の知見を有する職員の減少、技術継承、そして災害対応、施設の老朽化対策などが挙げられます。その中で水道事業に関しては、2019年10月に施行された改正水道法で「水道の基盤強化」の重要性が明記され、資産管理、広域連携、官民連携等の推進に向けた取組みが全国的に進められているところです。

さまざまな主体と連携を図りながら持続的な運営をしていくことの重要性を多くの事業体が認識していながらも、地方に行けば行くほど人口減率は高く、事業体内の人材不足や施設の老朽化の問題が深刻な状況となっている状況です。

市長がおっしゃられます通り、常陸大宮市は広い市域の中に点在する施設が非常に多く、それに伴う管路延長も非常に長いという特性を有している中で、それをいかに守っていくかというのが、今後より一層重要になってまいります。

全国的にあらゆる社会インフラが維持管理の時代に突入しています。その中で、自らの取組みを点検しながら今までのやり方の検証と見直し、新技術の適用可能性、周辺事業体との連携など、さまざまな知恵や工夫、そして想いを持って一つひとつ解決策を実行していくことが求められていると感じております。

水道・下水道の経営形態である公営企業は、自治体がその事業の責務を担い、さまざまな意見を取り入れながら、地域で守り、作り上げていくことがより一層求められます。これには市民を含めた合意形成も含まれます。

有収率の改善という目下の課題については、幅広い技術メニューやノウハウの中から、いかにリーズナブルに管路の修繕、更新を行っていくかが求められますが、その対策を実行するための体制づくりも同時に行っていかないと、有収率の向上はなし得ないと考えています。管路に関わるさまざまな属性や地域特性に基づくデータや傾向を蓄積し、一緒に現場を歩きながら考え、修繕や更新などの具体策を講じるプロセスと体制の構築をサポートしていきたいと考えています。これらは短期的な取組みと中長期的な視点を持った体制づくりの両方が重要となります。

漏水という技術的な課題だけでなく、さまざまな課題や対策があろうかと思います。現地活動や交流等を通じて気づいたことをしっかり共有させていただき、議論し、できることを解決し、継続していく、そういった取組みを支援できればと考えています。

地域の中で培ってきたものを尊重し、かつ新しいアイデアや知見を組み合わせて、さらには地域を守る地元の企業の方々も含めた常陸大宮市さんに見合った運営と改善をサポートさせていただきたいと考えています。

公営力は地域の貴重な財産

「泥臭い」経験　共有に期待

■経験の共有

鈴木定　横浜ウォーターさんとの連携において最も期待しているのは、横浜の水道の長い歴史の中で培われてきた泥臭い経験の共有です。日本の近代水道発祥の地である横浜の歴史、そして横浜の経験を基礎に各地で培ってきた経験、この経験を提供していただけることには強い期待を持っています。

広い市域の中に点在する施設が抱える課題というのは、経済性や理屈ではどうにもならない要素があります。山間地の水道を維持するには、技術的にもたくさんの苦労があります。その中で、それぞれの地区で安定的に安全な水をなるべく多くの市民が享受できるための、細かな工夫や苦労というのが行われてきました。

横浜ウォーターさん、横浜市さんにおいても豊富な知見の中に、失敗や試行錯誤を重ねた泥臭い経験が詰まっているのだと思います。この経験が連携を通じた業務の中で本市に共有されるということは本当にありがたいことです。

鈴木慎　これまでの常陸大宮市さんとの業務は経営計画の策定、施設台帳の整備と、業務名称を見ると机上での資料作りと思われるような業務ですが、当社は現地・現物・現実主義をモットーに取り組んできました。

まずは職員の皆さまが日々管理される現場をしっかり知ることを大切にし、業務スタート時から多大なる時間を頂戴し、職員の皆さまとの現場や意見交換をご一緒させていただきました。こうしたマインドと活動が今回の協定締結、そしてこれからの取組みの原点になると考えています。こうした現場での時間がまさに泥臭さを共有しているということなのかもしれません。

有収率の問題においても、やはり現場を歩くことが漏水の原因や対策を探る第一歩です。横浜市は漏水対策を直営で実施する中で、多くの経験値を積んでこられています。横浜と言いますと、大都市のイメージを持たれるかと思いますが、起伏に富み、農地も多く、人口減少が急速に進むエリアもあります。漏水対策とともに、すべての地域に安全で安心な水道水を供給する水道用についても、現場で解決する経験やノウハウを持ち合わせています。

現場とともに歩むマインドを忘れずに、常陸大宮市さんにおける課題解決の最適解をともに探っていければと思っています。

そして、全国的に広域連携や官民連携の推進が求められる中で、その地域に見合った最適な方策を考えることが重要になろうかと思います。用水供給を受ける茨城県企業局や近隣事業体との連携についても、広域連携を推進する国の制度の活用も含めて検討の可能性が広がってきており、県北地域の連携等を密引される常陸大宮市の取組みもサポートできればと思っています。

鈴木定　横浜ウォーターさんは横浜市水道局の100%出資ではありますが、民間企業の気風が生かされている企業であるというのを強く感じているところです。私自身、民間企業に長年務めてきたこともあり、行政、民間企業、それぞれの長所・短所を感じてきました。横浜ウォーターさんと仕事をさせていただくというのは、上下水道部の職員にとって非常に良い経験になるとうれしく思っています。

鈴木慎　私も民間で育ってきた人間ではありますが、これまでの技術を継承しつつ、新たな発見や取組みを上下水道業界にもたらしながら自治体における公営力強化に貢献したいという想いをもって日々取り組んでおります。

当社が提供するサービスを例えるならば、横浜市という総合病院と連携した「かかりつけ医」なのかもしれません。最新の治療や診断方法、薬等を提供して下さる企業の技術情報等を常に収集し、お客さまの症状に適した処方箋等を提供し、お客さまの健康維持や発展に寄り添う。

そして、何よりも常陸大宮市の上下水道が健全であり続けるために、上下水道部の職員の皆さんが元気で健康であるということが第一です。そういった意味で、お互いの組織が活性化できるプログラムや前向きに仕事に取り組むために一緒に考える場などを積極的に作っていきたいと思っています。

鈴木定　上下水道部は若い職員、元気のある職員が多くいます。協定の締結を契機にした展開が楽しみです。経営基盤の強化に向けた連携、支援につきまして、今後ともよろしくお願いいたします。

鈴木慎　こちらこそよろしくお願いいたします。